

美祿市中心市街地地区 令和6年2月

Mine デザインノート



「Mine デザインノート」について	02
1 これまでの取り組みについて	03
2 美祿市中心市街地地区の状況について	04
3 地域資源について	05
4 空間デザインの全体コンセプト	06
5 未来スケッチ（全体イメージパース）	07
6 空間デザインの全体コンセプトと動線・ゾーニングの考え方	09
7 ゾーンごとの整備コンセプト	11
1) 賑わいゾーン	11
2) 水辺ゾーン	15
3) 教育・子育て・健康ゾーン	19
4) 行政ゾーン	23
5) 公園ゾーン	25
8 駅前から市役所までつなぐアイデア＝「咲くライン」	27
9 空間デザインのコンセプトを考慮した景観・意匠のデザインコード	29
デザインの実現に向けて	31

「Mine デザインノート」について

「Mine デザインノート」は、市民の皆さんや今後複数にまたがる設計者、工事事業者に対して、まち全体のデザインや利活用、維持管理について、また、今後もまちの未来像について意思共有できる指針とします。文言だけでなく、利用イメージを想起しやすいパース画を挿入することで、誰にでもわかりやすい指針とし、完成予想図のイメージを伝えるパンフレットの機能に加え、デザインの意図や使い方なども明記した冊子を作成します。手にした人がワクワクするような未来をイメージできるものとしします。

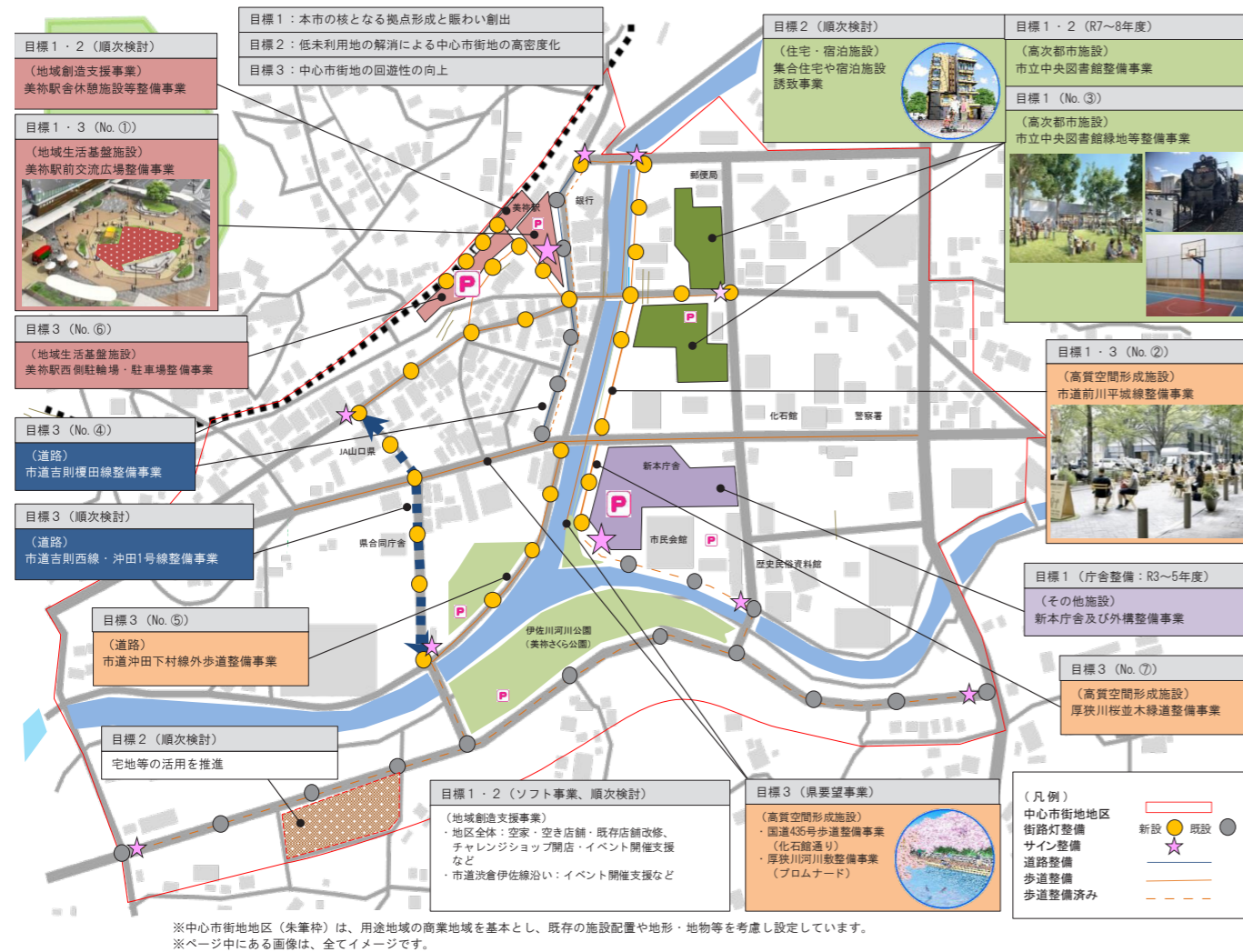
※本書に記載している「まちづくりデザイン」とは、施設の形状や色調といった目に見えるものだけでなく、空間の使い方や機能性、事業全体の進捗管理や供用後の管理運営を含めた概念を示しています。

※本書に記載されている名称や計画内容は2024年（令和6年）2月時点の情報を元にしており、計画内容や名称などについては変更する可能性があります。

1 これまでの取り組みについて

美祢市中心市街地地区は、空き家や空き店舗が目立ち、公共施設の老朽化も相まって賑わいや活力が低下しており、また良質な歩行空間や景観なども不足し、市民からは快適で賑わいと消費を生み出す回遊性向上等が求められています。そこで、美祢市では本地区が抱える課題等に対応し、中心市街地にふさわしい魅力ある都市空間づくりを進めるため、市民ワークショップや中高生アンケート調査の結果等を踏まえ、令和4年度に中心市街地地区整備計画（案）を作成しました。

整備概要図 中心市街地地区整備計画（案）より



※中心市街地地区（朱筆枠）は、用途地域の商業地域を基本とし、既存の施設配置や地形・地物等を考慮し設定しています。
※ページ中にある画像は、全てイメージです。

また、市のこれまでの取組を踏まえ、市役所新本庁舎の建替（令和5年11月供用開始）や図書館の建替（別途検討中）と合わせた、美祢駅前交流広場、美祢駅西側駐輪場・駐車場、新図書館緑地等の整備に向け、本市のイメージに合った統一的な景観を創り出し、魅力的かつ賑わい再生が期待される、整備実現のための空間デザインを作成します。

2 美祢市中心市街地地区の状況について

交通 JR美祢駅は、1～2時間に1本程度の運行で、駅利用者数は400人程度/日であり、中高生の通学や公共施設等へのアクセス拠点となっています。駅前広場は、バス・タクシー・一般駐車場など車が中心の空間となっており、駅前には待合のための施設もなく、歩行者のための整備に乏しい状況です。



JR美祢駅の待合スペース

施設 JR美祢駅前は、美祢市の中心市街地として、市役所本庁舎をはじめ、市民会館、図書館等の公共施設や商業・医療施設等が立地しています。また、ジオパークの見学地の一つとして、歴史民俗資料館・化石館があります。



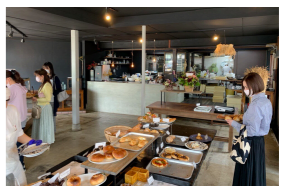
市街地の街路の状況

道路 国道435号から2車線の市道で道路ネットワークが構築されており、地区への車でのアクセス性がよい一方、厚狭川西側は昔ながらの街路形状で道路幅員は狭く歩道もない状況です。



厚狭川と桜並木

河川 本地区内を貫流する伊佐川と厚狭川の沿川には、桜並木が広がり、その合流点に整備された美祢さくら公園では、週末は家族連れなどで賑わいます。一方で、厚狭川沿川の建物は、川に背を向けているなど、公共空間と民地の一体的な空間活用はできていません。



地区内の魅力的な店舗

商業 駅周辺の街区では、空き店舗が目立つものの、一部にリノベーションされた人気店や昔ながらのお店があり地域を盛り上げる事業者が存在します。

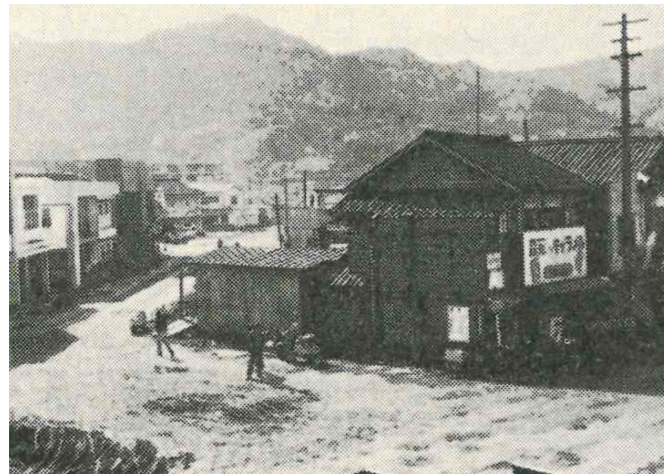


美祢市中心市街地地区周辺における施設と道路の状況

3 地域資源について

美祿市中心市街地地区は、駅西の飲食・物販エリア、厚狭川の桜並木とさくら公園、駅南東の公共施設の集積エリア等から成る広がりのあるエリアです。

- 美祿駅は大正5年に開業、石炭や石灰石の積出しにより、貨物輸送・発着量が全国上位を誇った歴史があります。
- 厚狭川より西側の駅前には、大正の面影を残す町割や木造建築物がみられ、往時の活気を偲ばせる飲食・商店が軒を連ねる等、路地的な界隈性のある旧市街地の様相を呈していますが、空き家や空き店舗も目立ちます。
- 伊佐川と厚狭川の沿川には、約200本の桜並木が広がっており、夜間はライトアップされるため夜桜も楽しむことから、桜が満開の時期には多くの人で賑わいます。
- 厚狭川は美祿市環境衛生推進協議会によって、また地域の共同清掃および河川清掃、ゴミ持ち帰り運動など地域の活動により環境保全が行われてきました。活動の一環として、錦鯉の放流やアヒルの放し飼いが行われました。



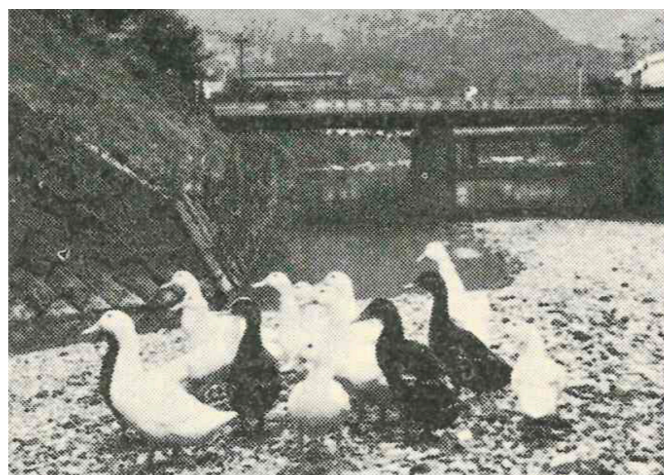
整備当時の美祿駅前



界隈性のあるレトロな街並み



伊佐川と厚狭川の桜並木



アヒルの放し飼い（厚狭川）

4 空間デザインの全体コンセプト

「Mine デザインノート」では「えき・みち・かわ が繋がり人が主役となるまちなか美祿リビング」を全体コンセプトとして、整備コンセプトを設定します。

全体コンセプト

えき・みち・かわ が繋がり 人が主役となる
まちなか美祿リビング

整備コンセプト

01 ひとが交流する駅前づくり

- ・ 駐車場の移設による駅前広場の創出
- ・ バス、列車の待合機能の強化
- ・ 多様な世代が憩える広場空間の確保
- ・ 賑わい創出に寄与するイベントスペースの確保



02 歩いて学ぶ楽しい回遊性高いみちづくり

- ・ 道の主要な歩行者動線としての位置付け
- ・ 道の歩行者専用道化
- ・ 歩行者専用道として快適な道路景観形成



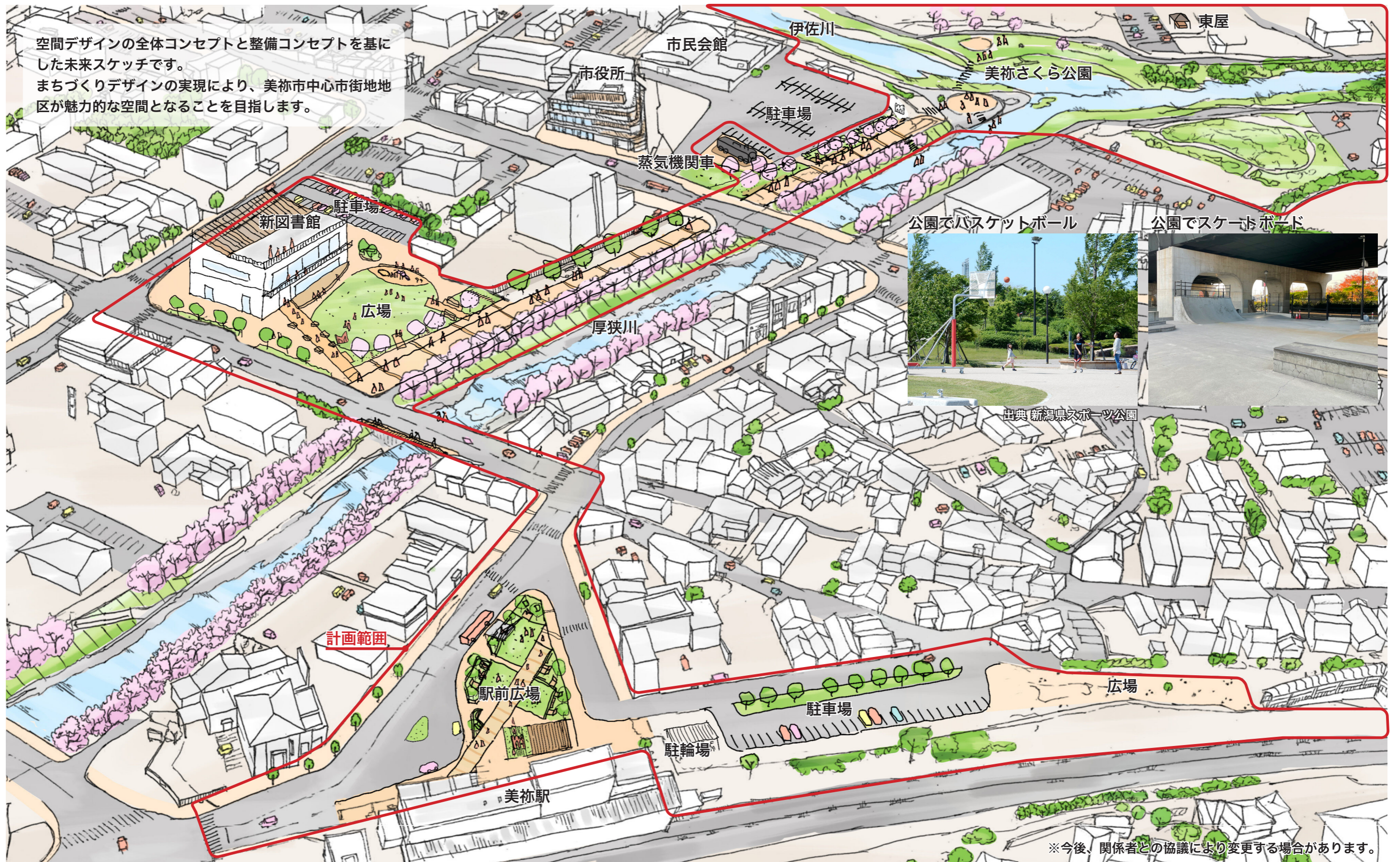
03 憩いある川沿いの空間づくり

- ・ 新図書館と河川とが一体的となる景観形成
- ・ 厚狭川への眺望を意識したみちづくり、施設づくり
- ・ 桜並木の保全・拡充・利活用
- ・ 蒸気機関車の移設による賑わい創出



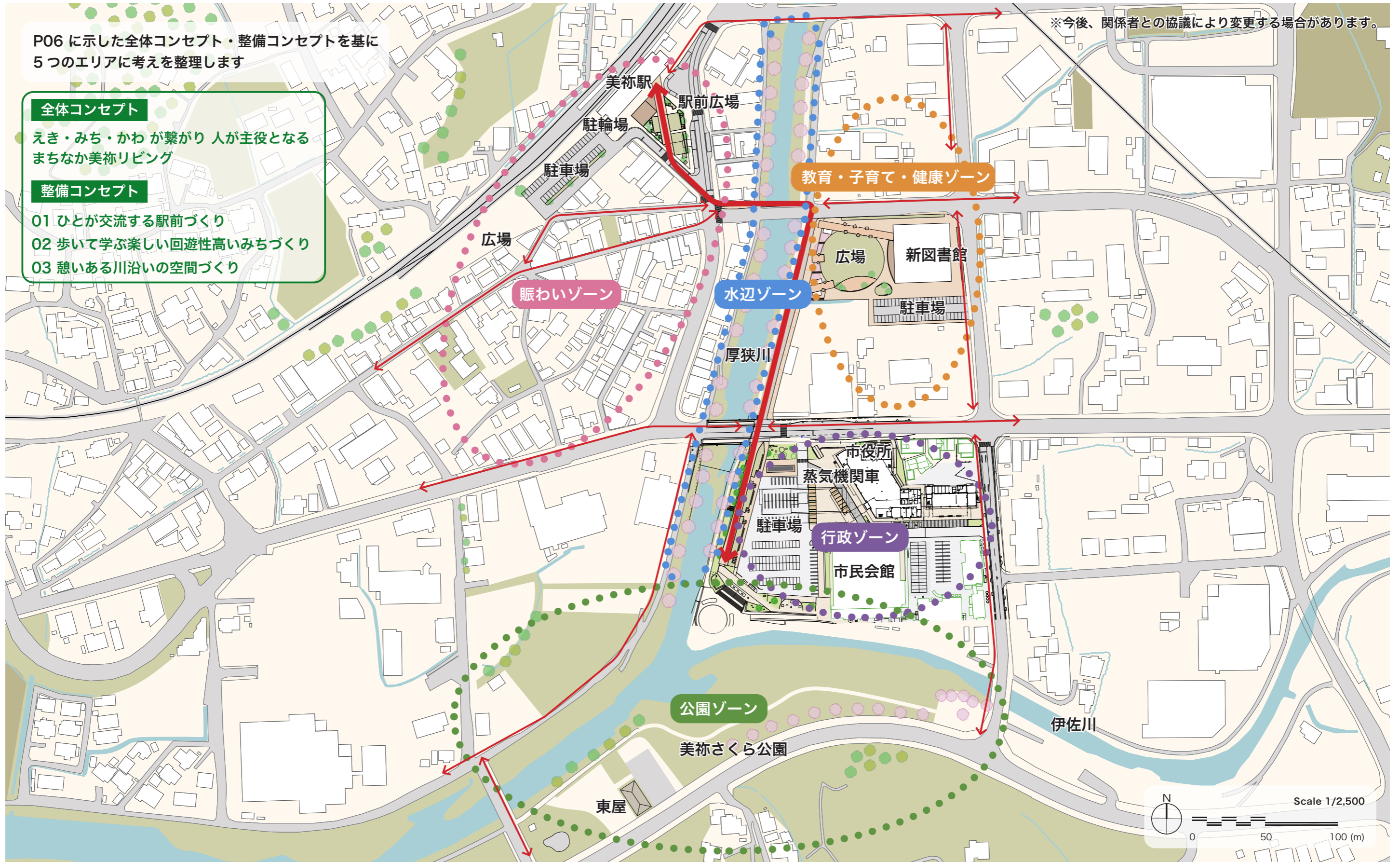
5 未来スケッチ（全体イメージパース）

空間デザインの全体コンセプトと整備コンセプトを基にした未来スケッチです。
まちづくりデザインの実現により、美祢市中心市街地地区が魅力的な空間となることを目指します。



※今後、関係者との協議により変更する場合があります。

6 空間デザインの全体コンセプトと動線・ゾーニングの考え方

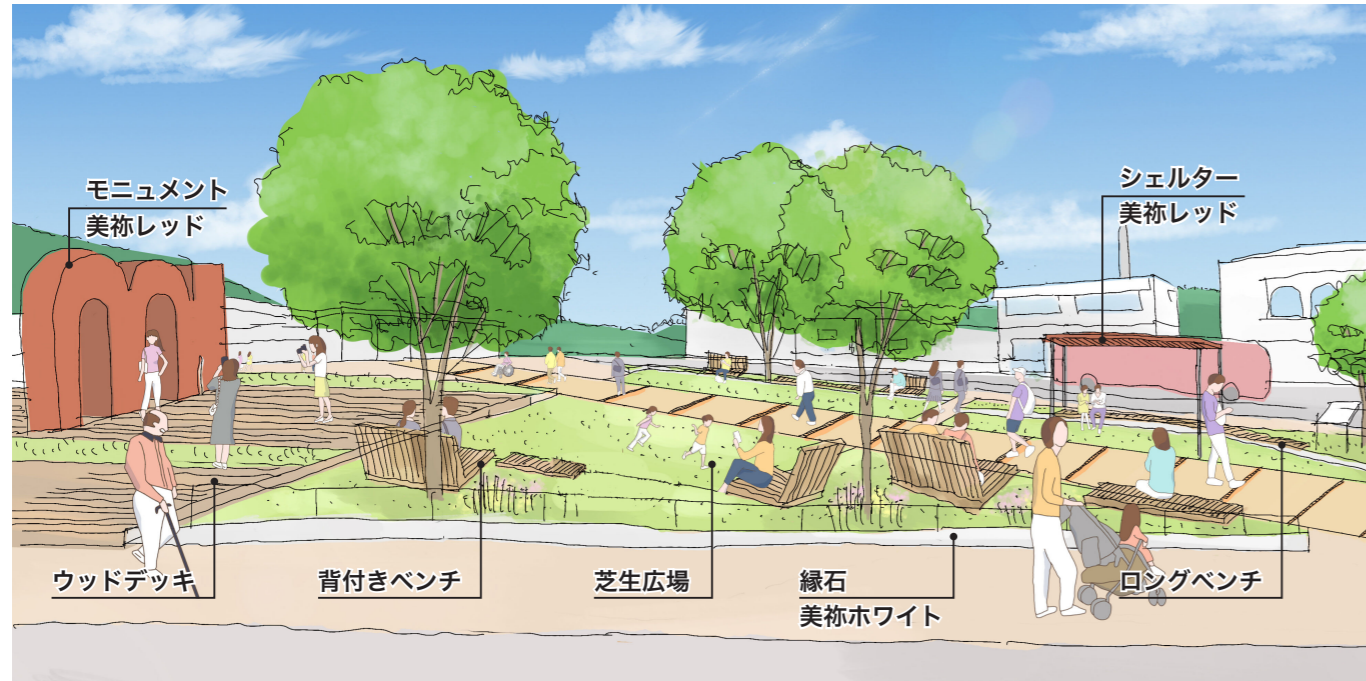


7 ゾーンごとの整備コンセプト

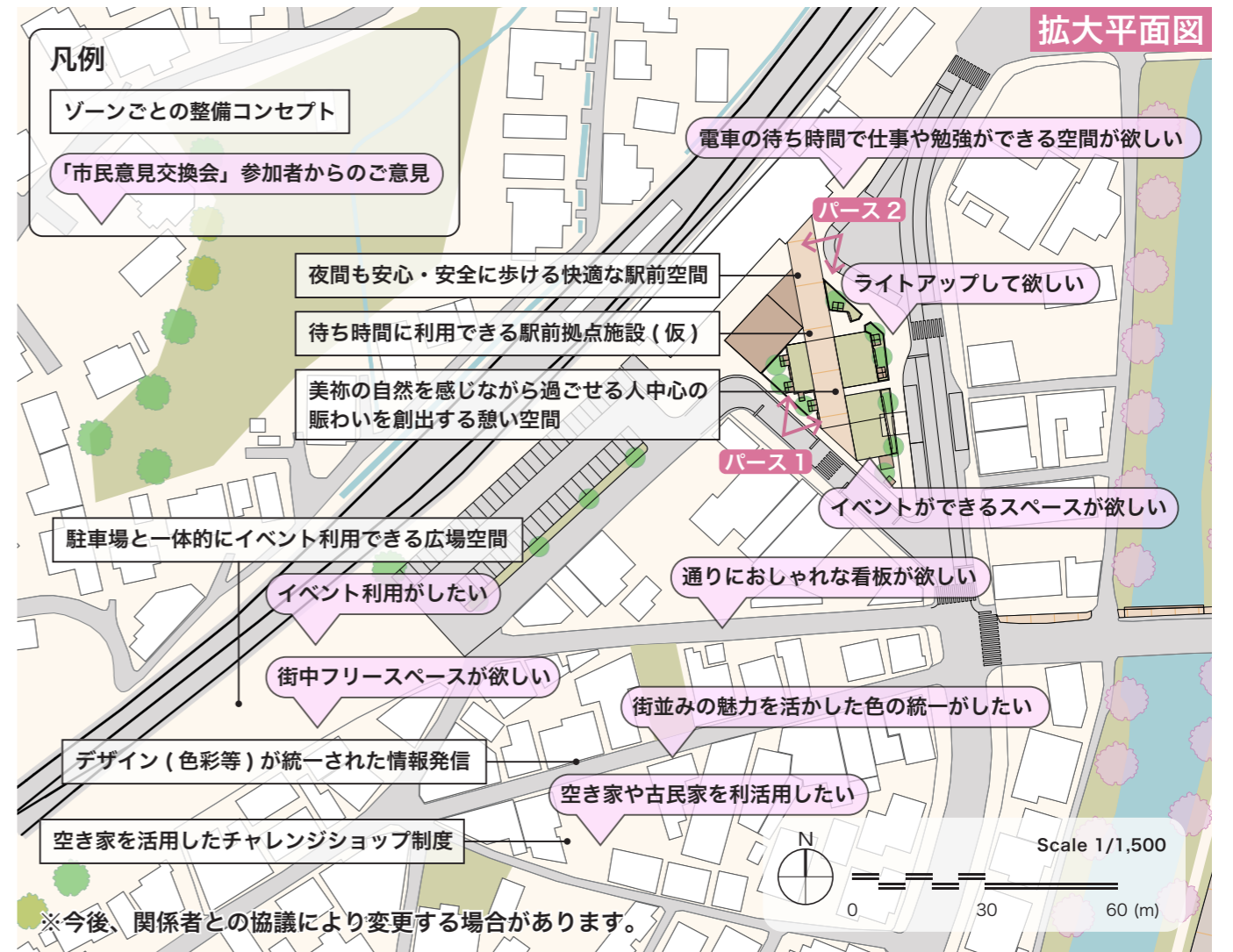
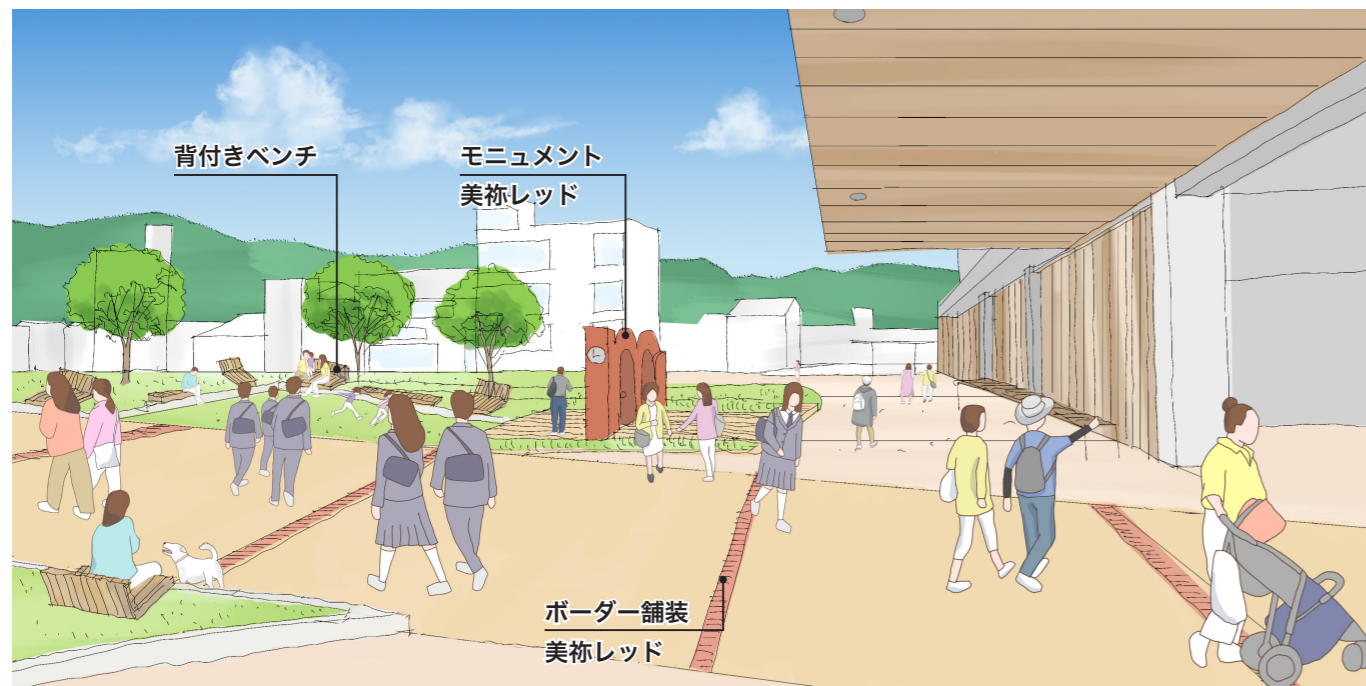
1) 賑わいゾーン

歩行者中心の空間づくりとともに、賑わい・交流が生まれる
 日常的な機能や利便性を考慮した駅前を含む賑わいゾーン

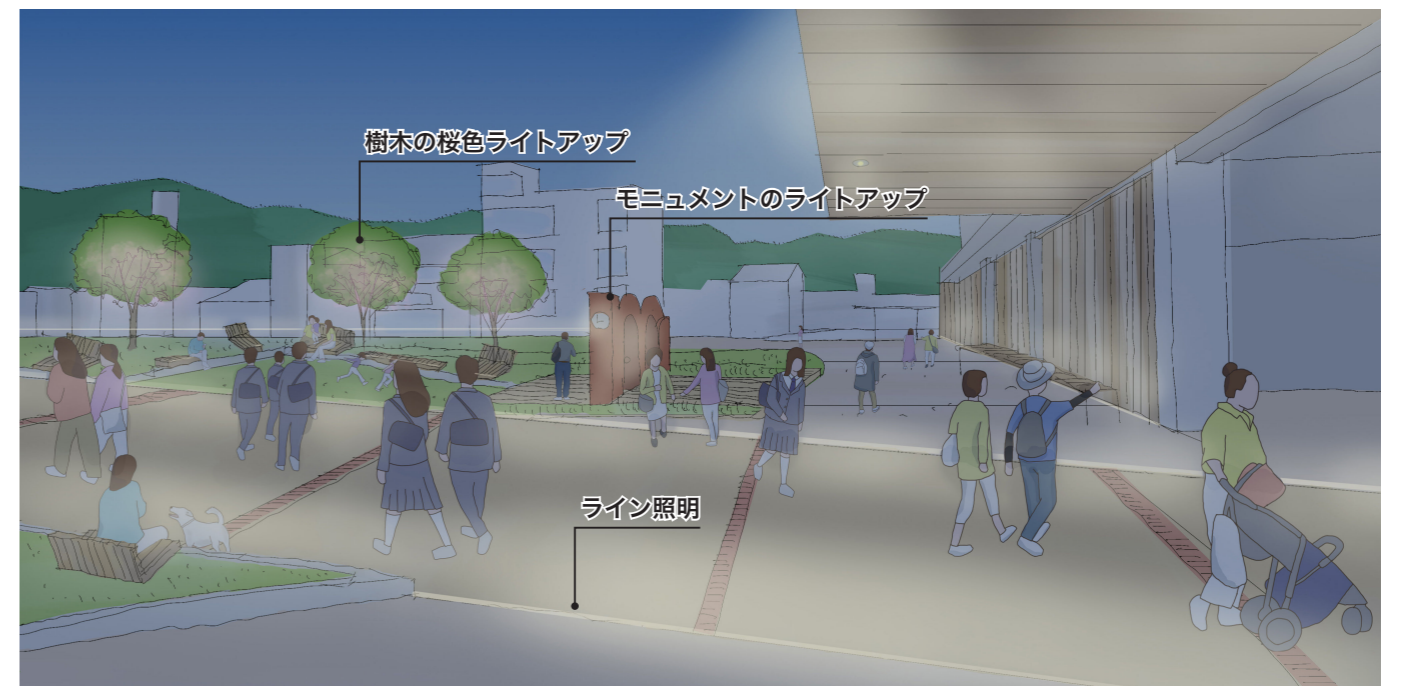
パース1 賑わいと交流拠点となる駅前空間づくり



パース2 歩行者中心となる歩きやすい歩行空間と憩いの駅前広場空間づくり



夜景イメージ ライン照明による動線の連続性の創出と安全安心な空間づくり



7 ゾーンごとの整備コンセプト

1) 賑わいゾーン

歩行者中心の空間づくりとともに、賑わい・交流が生まれる
 日常的な機能や利便性を考慮した駅前を含む賑わいゾーン

コンセプトを実現するリンク（通行）とプレイス（滞在）の空間デザイン

オープンスペースや通りのリンク（通行）とプレイス（滞在）機能について

- 一般的にオープンスペースや通りには、交通の場としての「リンク（通行）」機能と、まちの活動・暮らしの場としての「プレイス（滞在）」機能の2つがあります。
- 前者は、人やモノが車両や徒歩で移動するための機能です。
- 後者は、様々なアクティビティが行われる場としての機能であり、人々が単に「歩行者」として通過するのみならず、「滞在者」として、多様な活動を繰り広げる場としての機能です。

リンク（通行）機能
人やモノが移動するための機能



目的地までの移動

プレイス（滞在）機能
多様な活動のための場としての機能



座る・食べる・遊ぶ等の活動

現状で不足している空間・機能の拡充に向けて空間の再配分を検討します。
 「リンク（通行）」と「プレイス（滞在）」2つの機能を2軸のマトリクスを用いて、対象施設・空間の機能や性格を定め、空間の再配分の方角性を“見える化”します。

美祢駅前広場

【空間配分】

美祢駅・駅前広場は、現状通行3・滞在1ですが、交通結節拠点としての現状の通行レベル3は維持しつつ、滞在機能レベルを3に高める方向へと転換します。

リンク（通行）機能 ➡ KEEP

- ・自家用車の送迎用スペースをポケットパークへ移設
- ・バスやタクシーの乗降場は確保

プレイス（滞在）機能 ⬆️ UP

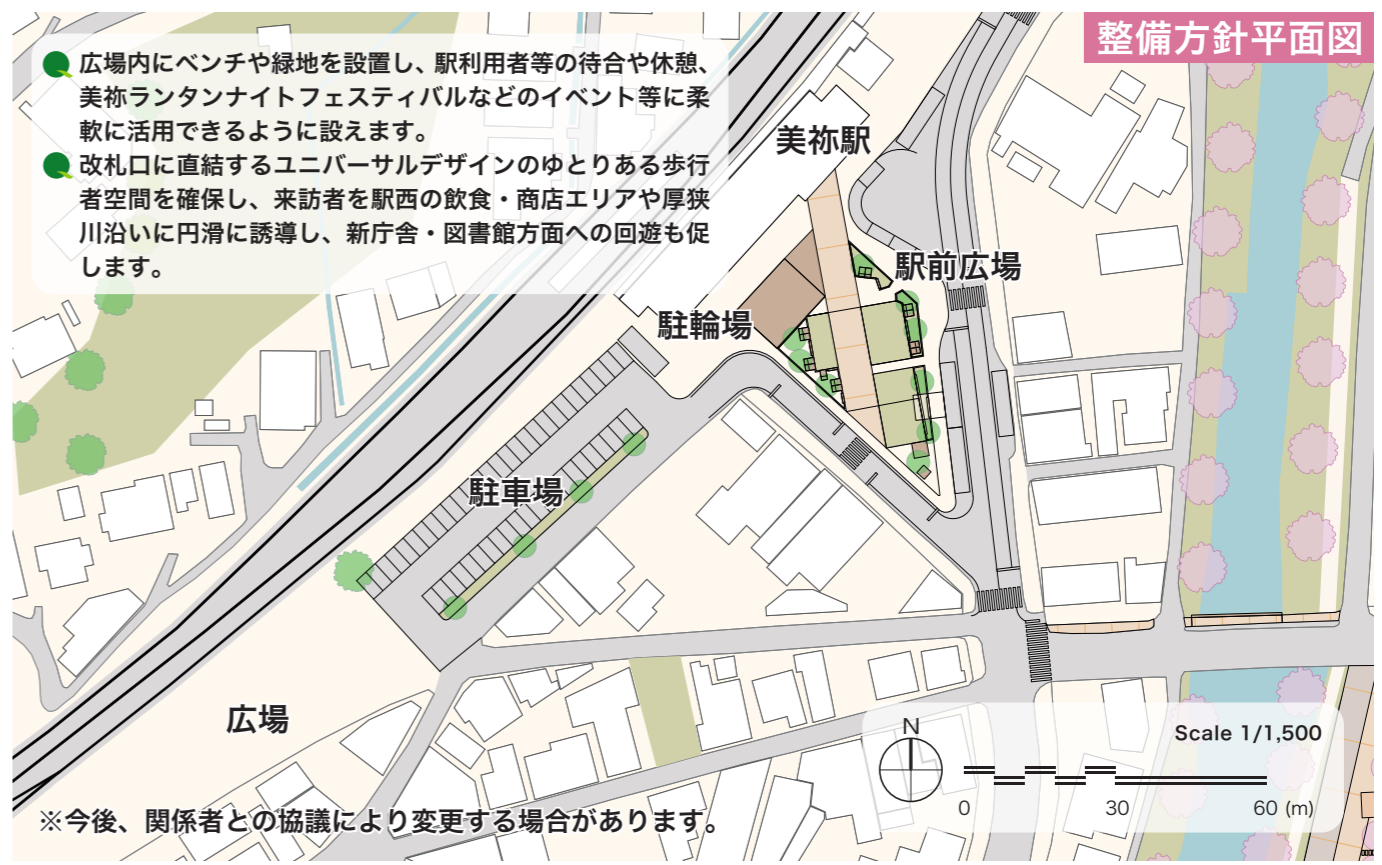
- ・駅改札直結のユニバーサルデザインの歩行者広場へ再整備
- ・待合や休憩のためのベンチや緑地を配置、イベントにも活用

リンクマトリクス表:

高	3	通行3 滞在1	➡	通行3 滞在3
2				
1				
低				高プレイス
		1	2	3

【配置方針】

既存の送迎用の自家用車の駐車スペースは、駅横の既存のポケットパークに移設します。また駐車スペースの元地は、歩行者広場化する考えとします。
 歩行者広場化する駅前広場は、駅舎に正対する歩行者広場とし、本市や地区の玄関口にふさわしい“リビングの顔”とします。

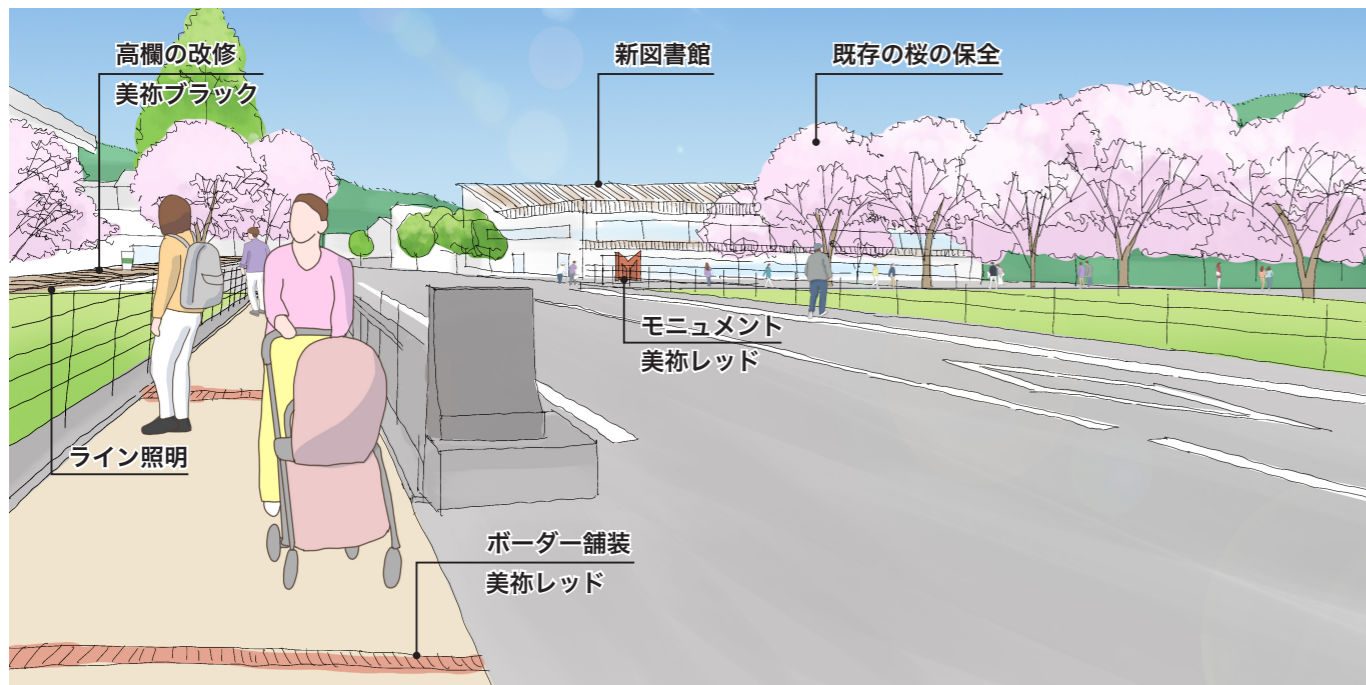


7 ゾーンごとの整備コンセプト

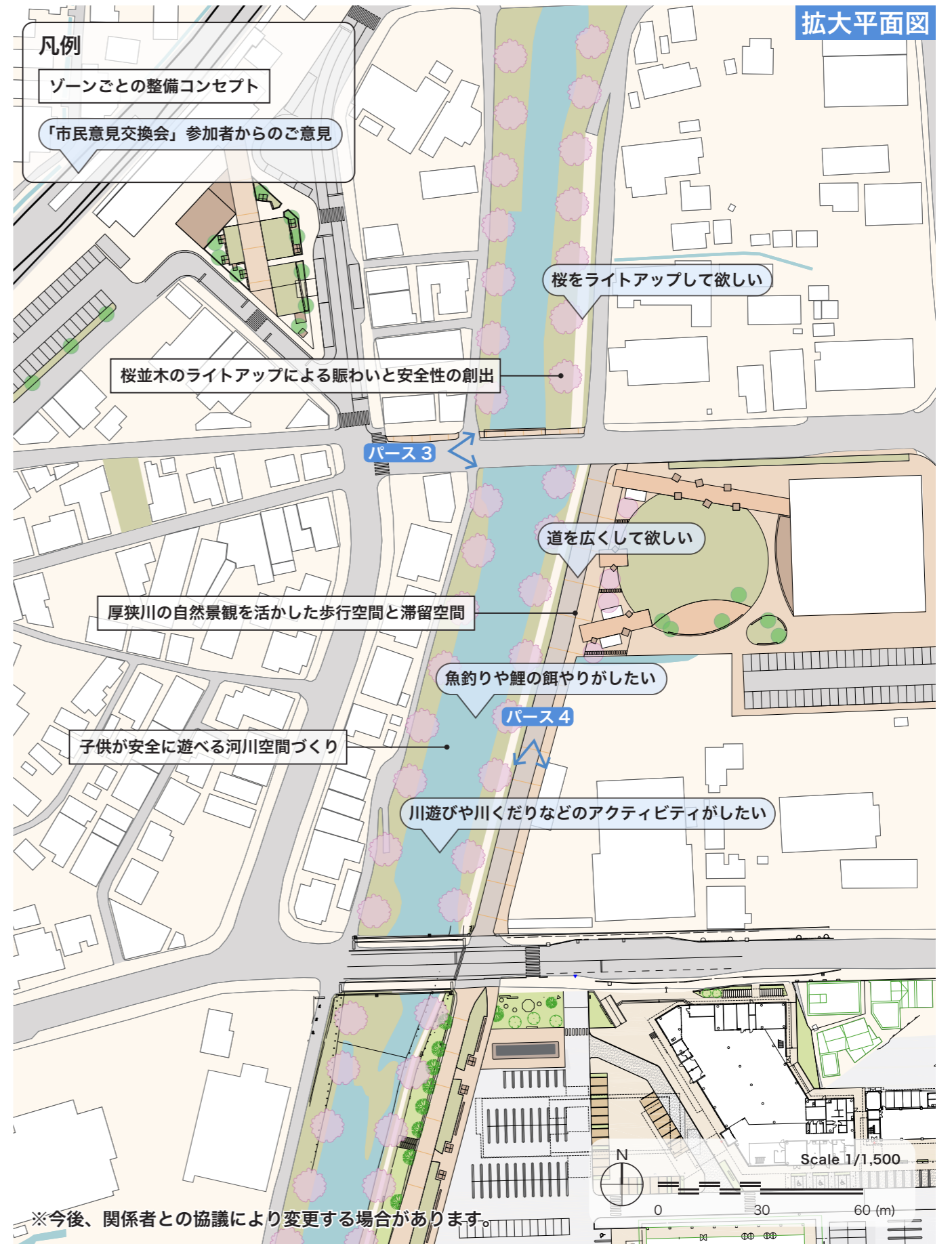
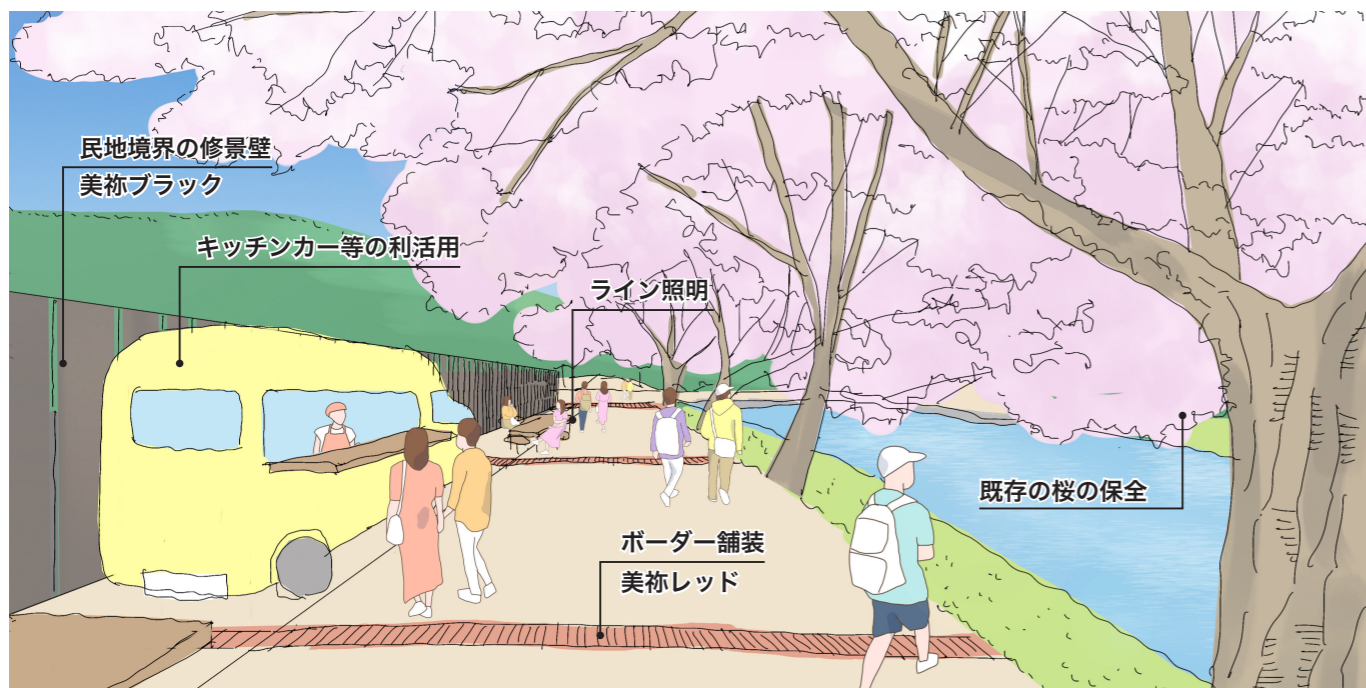
2) 水辺ゾーン

厚狭川の桜並木等の自然景観を活かした視点場づくりや
川遊びや厚狭川沿いの散歩などのアクティビティを楽しむ水辺ゾーン

パース3 橋の視点場を活かした、厚狭川の自然豊かな景観を感じられる立ち止まりたくなる空間づくり



パース4 厚狭川の水辺と桜並木を活かした、気持ちよく歩ける歩行空間づくり



7 ゾーンごとの整備コンセプト

2) 水辺ゾーン


厚狭川の桜並木等の自然景観を活かした視点場づくりや
川遊びや厚狭川沿いの散歩などのアクティビティを楽しむ水辺ゾーン

コンセプトを実現するリンク（通行）とプレイス（滞在）の空間デザイン

オープンスペースや通りのリンク（通行）とプレイス（滞在）機能について


- 一般的にオープンスペースや通りには、交通の場としての「リンク（通行）」機能と、まちの活動・暮らしの場としての「プレイス（滞在）」機能の2つがあります。
- 前者は、人やモノが車両や徒歩で移動するための機能です。
- 後者は、様々なアクティビティが行われる場としての機能であり、人々が単に「歩行者」として通過するのみならず、「滞在者」として、多様な活動を繰り広げる場としての機能です。

リンク（通行）機能
人やモノが移動するための機能



目的地までの移動

プレイス（滞在）機能
多様な活動のための場としての機能



座る・食べる・遊ぶ等の活動

現状で不足している空間・機能の拡充に向けて空間の再配分を検討します。
「リンク（通行）」と「プレイス（滞在）」2つの機能を2軸のマトリクスを用いて、対象施設・空間の機能や性格を定め、空間の再配分の方角性を“見える化”します。

厚狭川左岸通路

【空間配分】

新庁舎・図書館に面する厚狭川左岸の通路（道路）は、吉則橋下流から国道435号の間が車両通行可能ですが、歩行者専用化して車両の通行レベルを落とす一方、広幅員街路（W=10m）化を想定して不足している歩行者の休憩スペースを拡充する方向とします。

リンク（通行）機能 ↓ DOWN

- ・吉則橋～国道435号区間の厚狭川左岸の通路は、車両進入を制限
- ・国道435号～さくら公園までの区間は、歩行者通路を維持

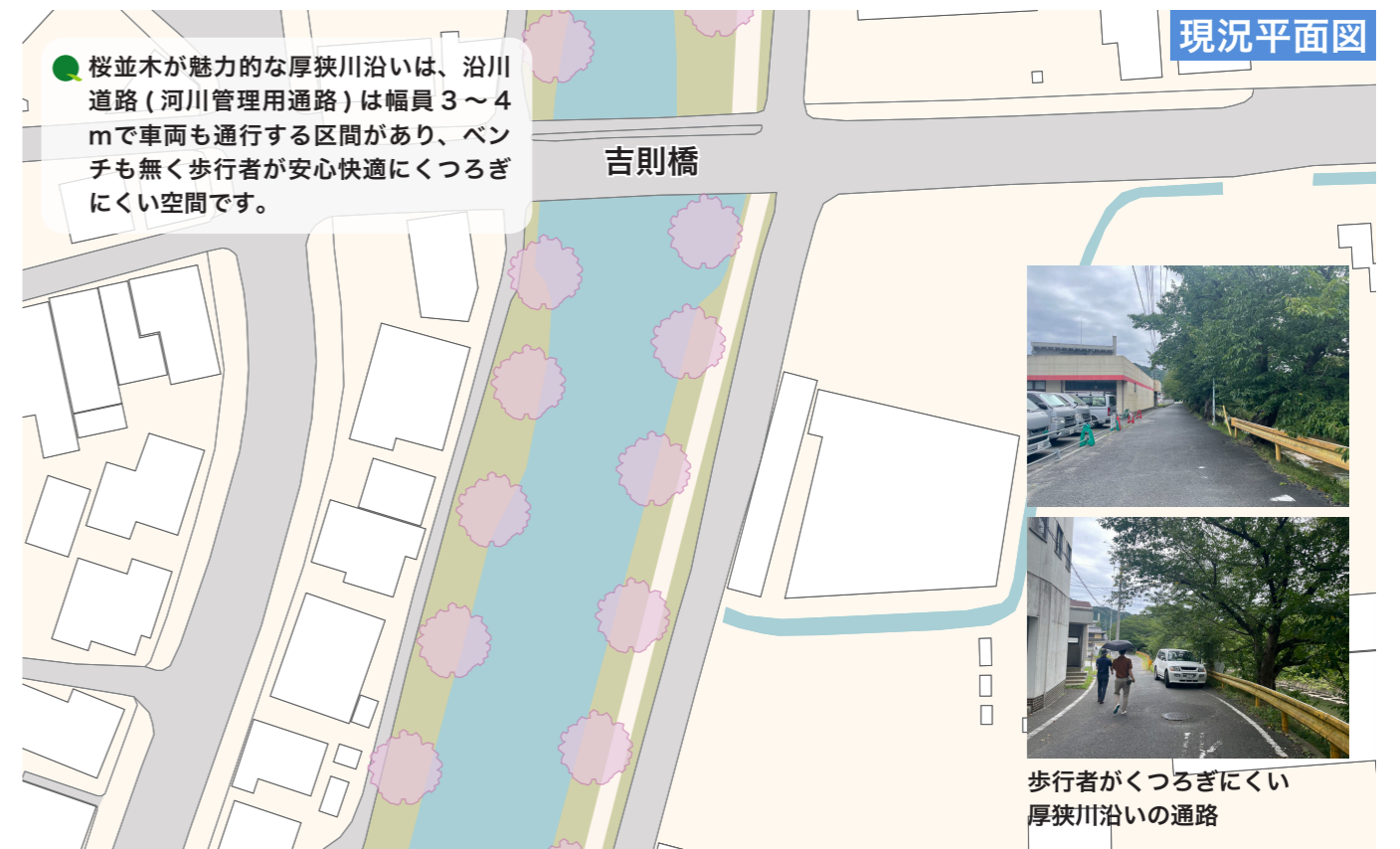
プレイス（滞在）機能 ↑ UP

- ・吉則橋～さくら公園間の左岸通路は、連続した広幅員歩行者通路化
- ・徒歩移動、そぞろ歩き、休憩等に広幅員空間をゆるやかに区分



【配置方針】

広幅員の歩行空間を有効活用し、新庁舎・新図書館などの目的地に向かって歩く人のための歩行空間と、新庁舎・新図書館を覗いたり厚狭川沿いをそぞろ歩きする人のための散策空間、川の流れや桜並木の風景を眺めながら休む人のための休息空間等にゆるやかに区分します。

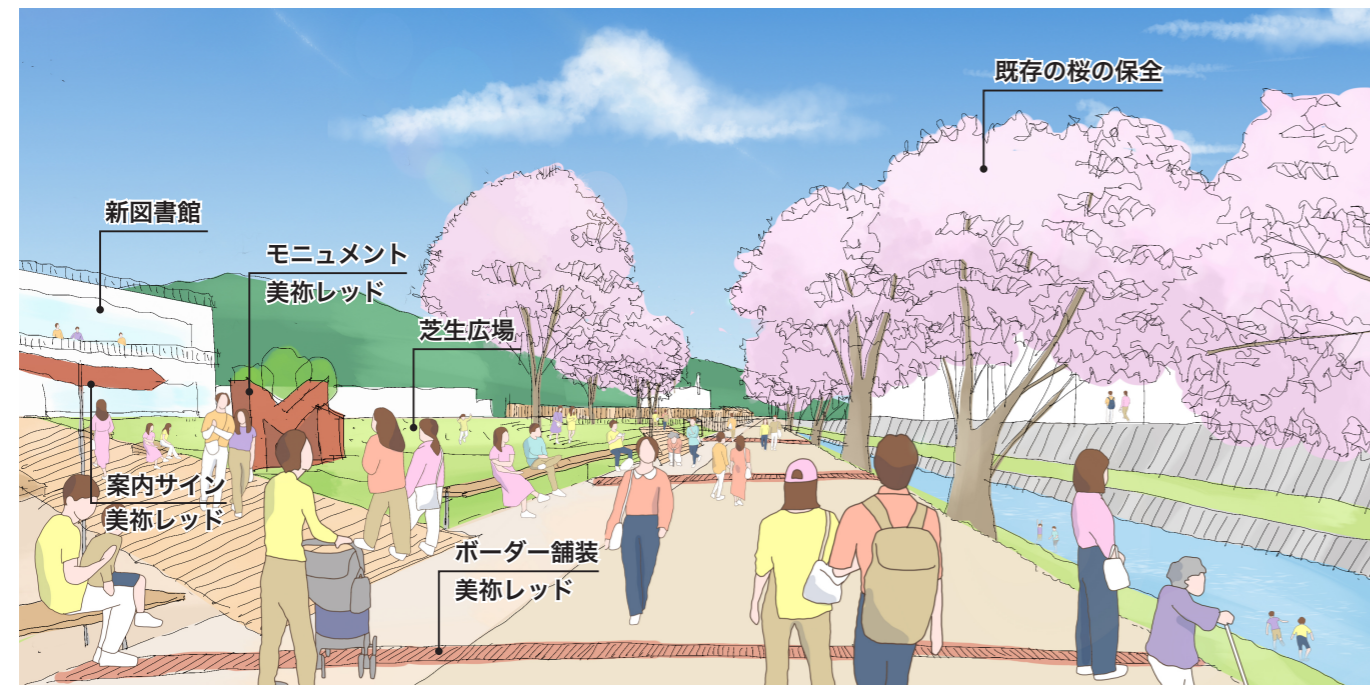


7 ゾーンごとの整備コンセプト

3) 教育・子育て・健康ゾーン

新図書館と連携した多様な世代の方の交流のきっかけとなる
憩いと新しいアクティビティを生む教育・子育て・健康ゾーン

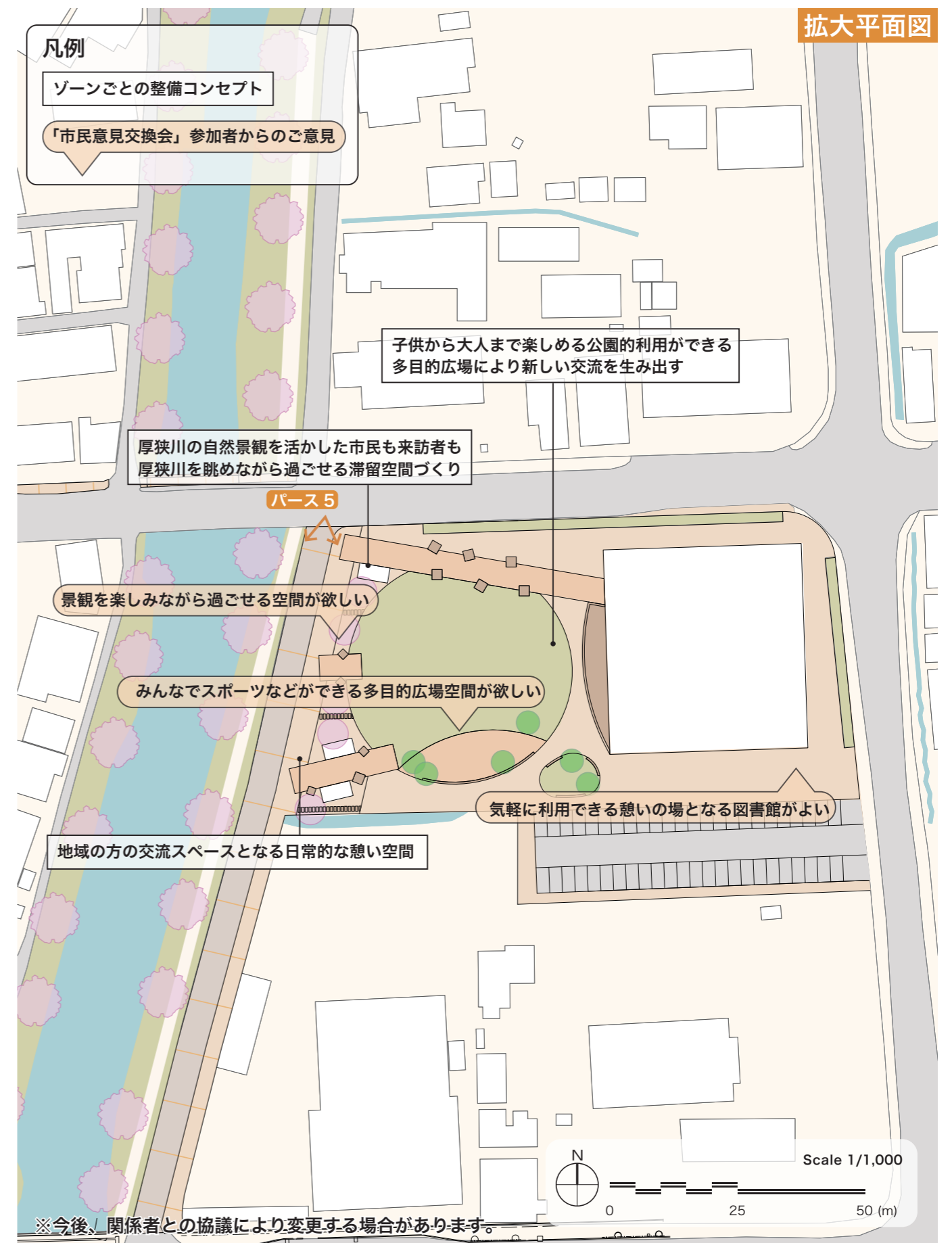
パース5 新図書館のセットバックによる歩行者中心の空間づくり



夜景イメージ ライトアップによる賑わいの創出



拡大平面図

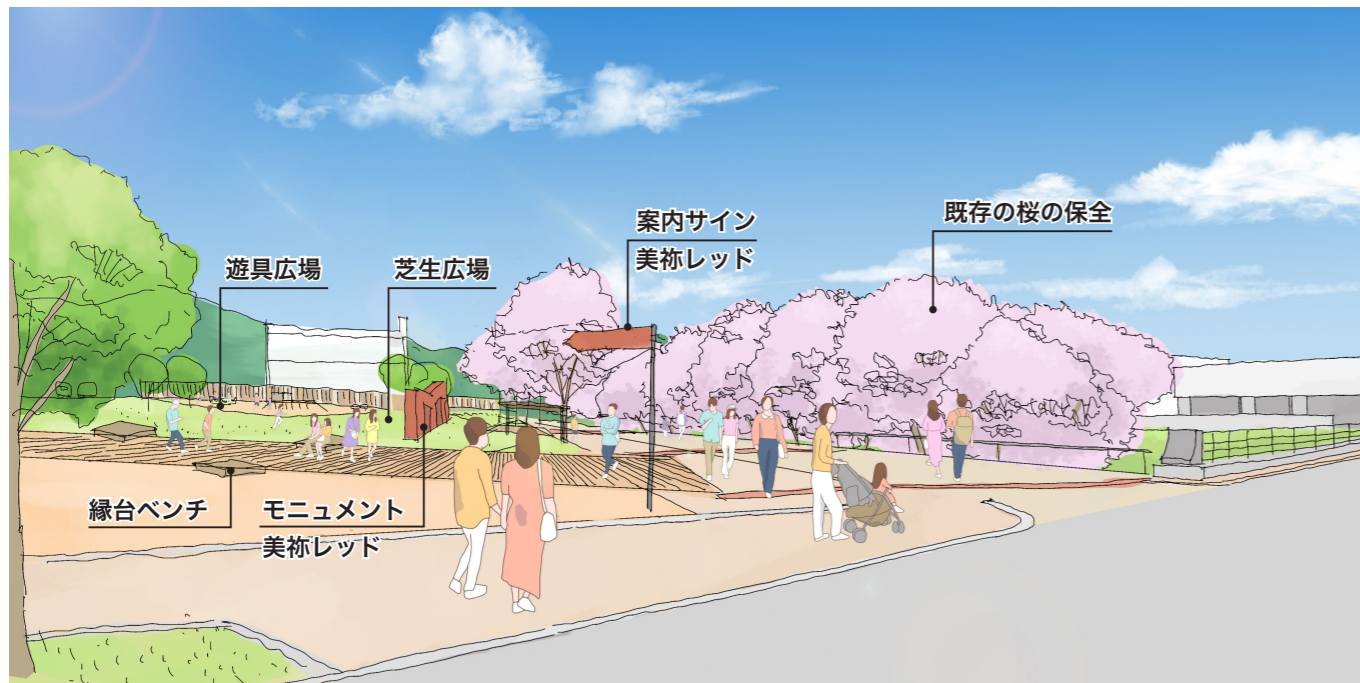


7 ゾーンごとの整備コンセプト

3) 教育・子育て・健康ゾーン

新図書館と連携した多様で多世代の方の交流のきっかけとなる
憩いと新しいアクティビティを生む教育・子育て・健康ゾーン

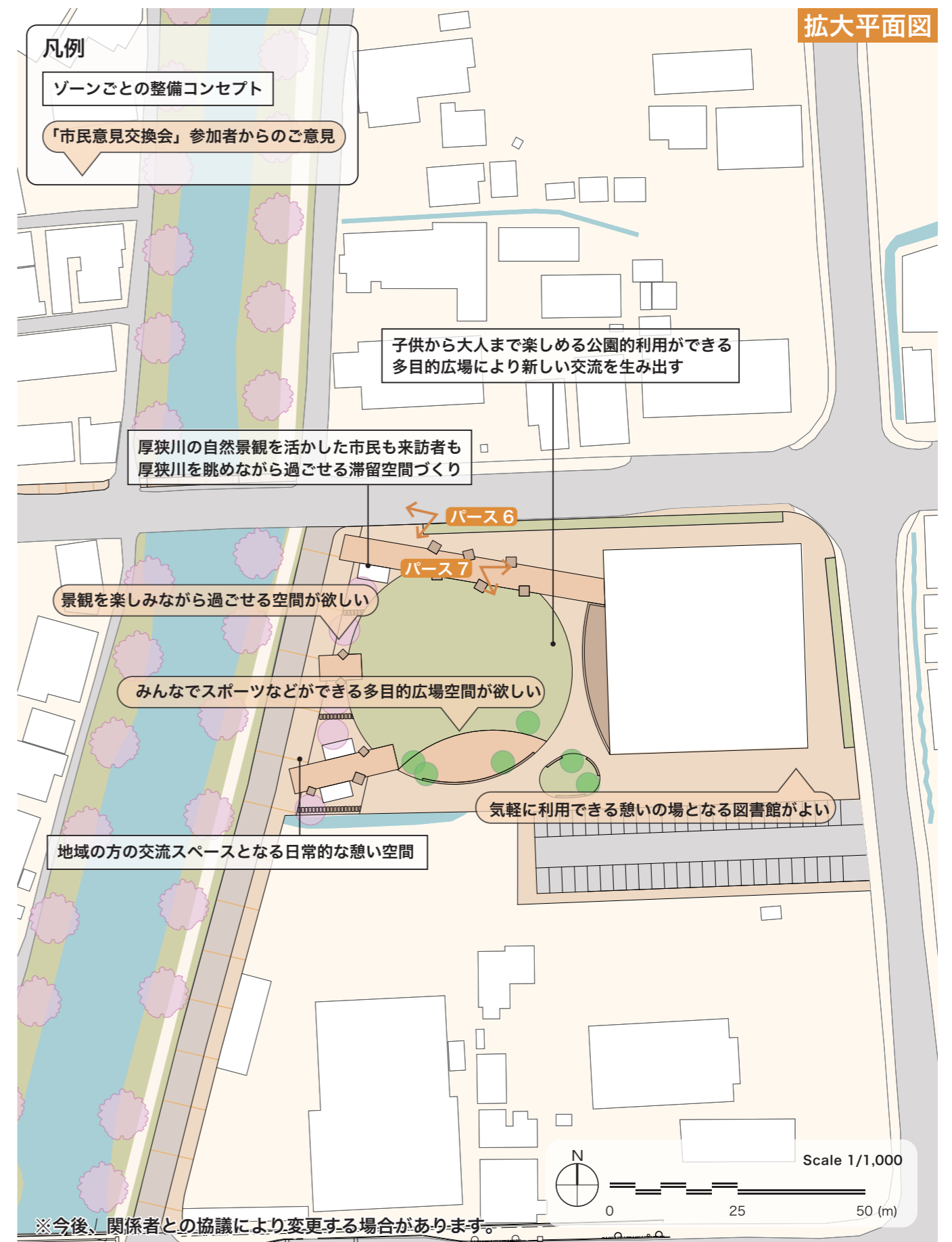
パース6 新図書館との連携による厚狭川に開いた立ち寄りたくなる空間づくり



パース7 新図書館と一体的に利用できる屋外の広場空間づくり



拡大平面図

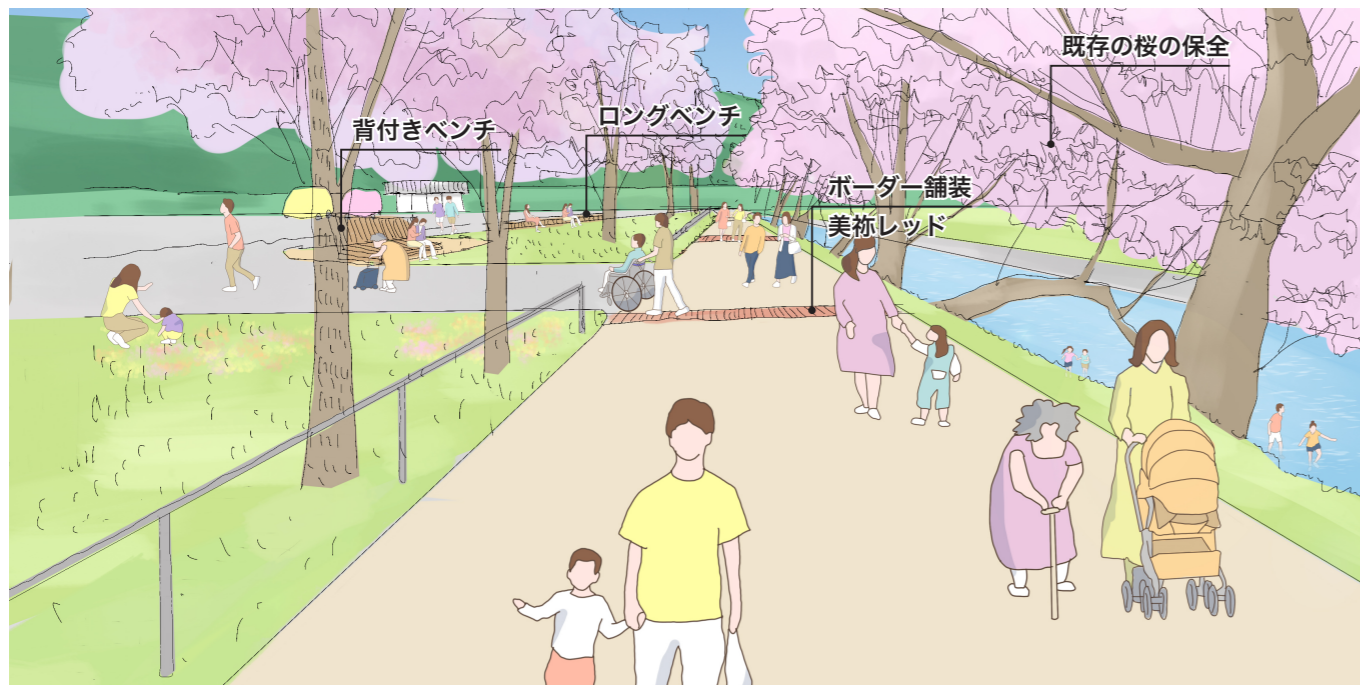


7 ゾーンごとの整備コンセプト

4) 行政ゾーン

厚狭川の連続的な自然景観と市役所前のパブリック性の高い立地特性を活かした
 日常の憩いと非日常の賑わい創出を図る行政ゾーン

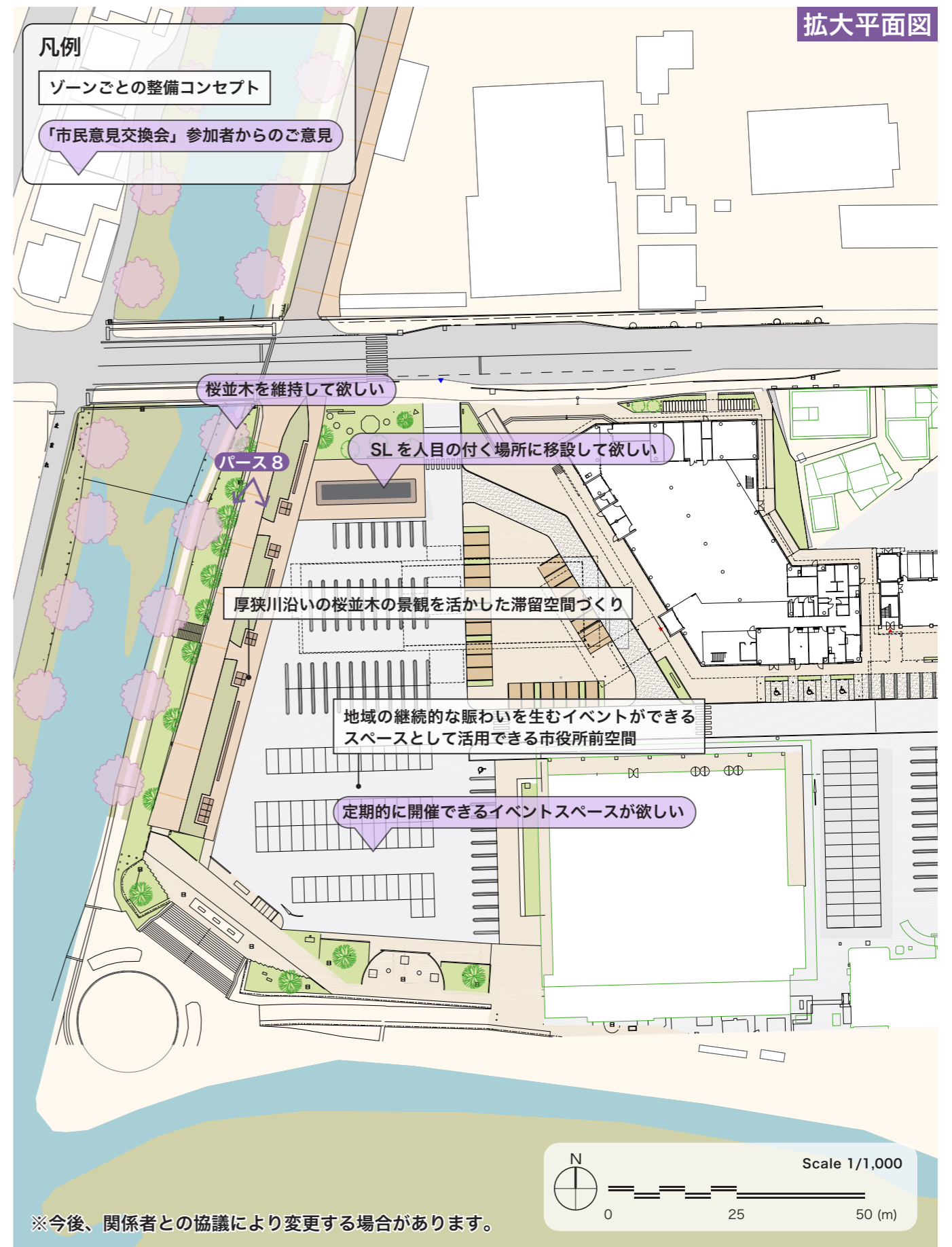
パース8 市役所駐車場と連携した歩行空間と日常の憩い空間づくり



夜景イメージ 厚狭川の桜並木のライトアップにより安全と賑わいを生む空間づくり



拡大平面図

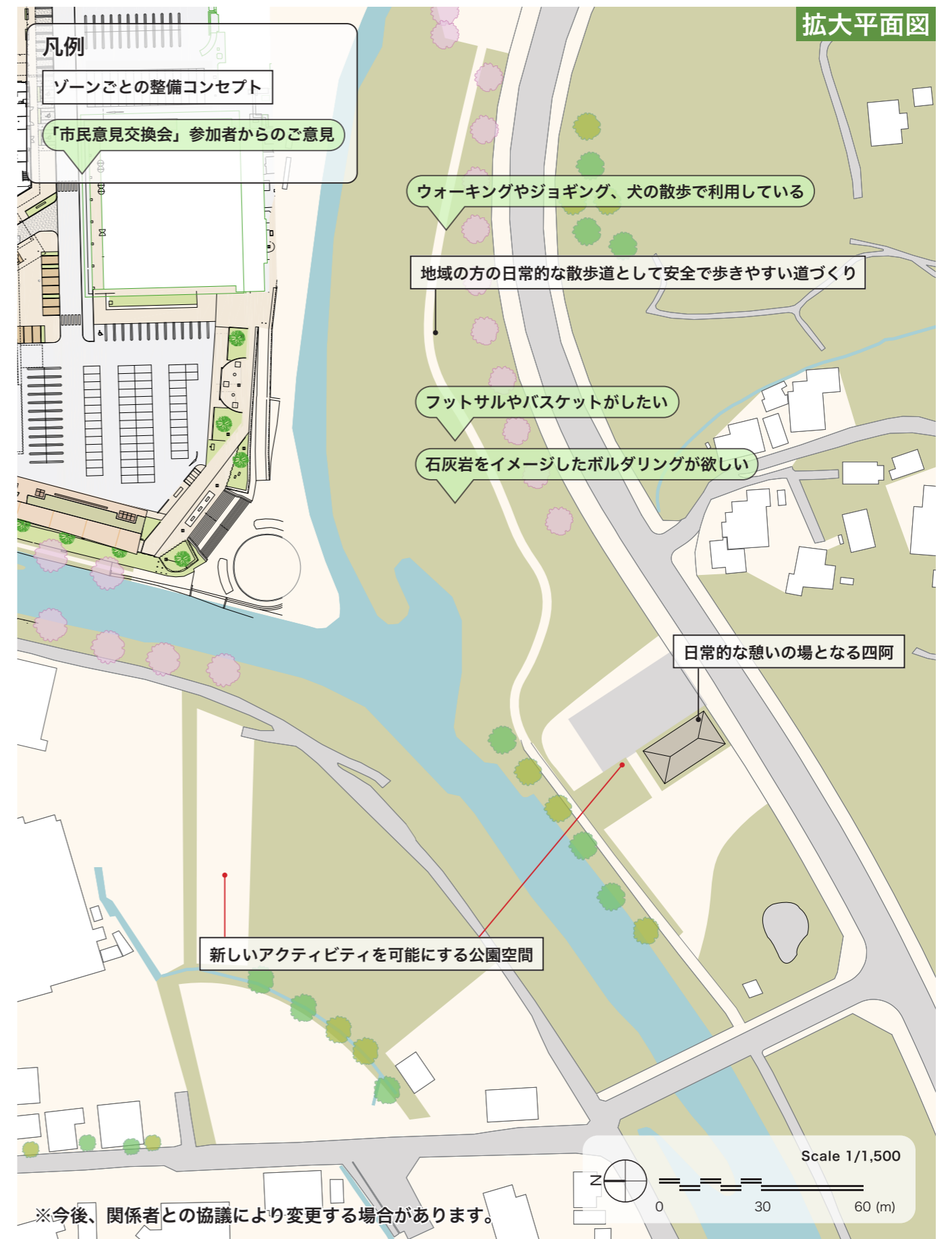


7 ゾーンごとの整備コンセプト

5) 公園ゾーン

厚狭川沿いに立地する美祢さくら公園を中心とした新しいアクティビティを可能にする公園ゾーン

イメージ 利用者ニーズを反映した多様なアクティビティに対応する空間づくり



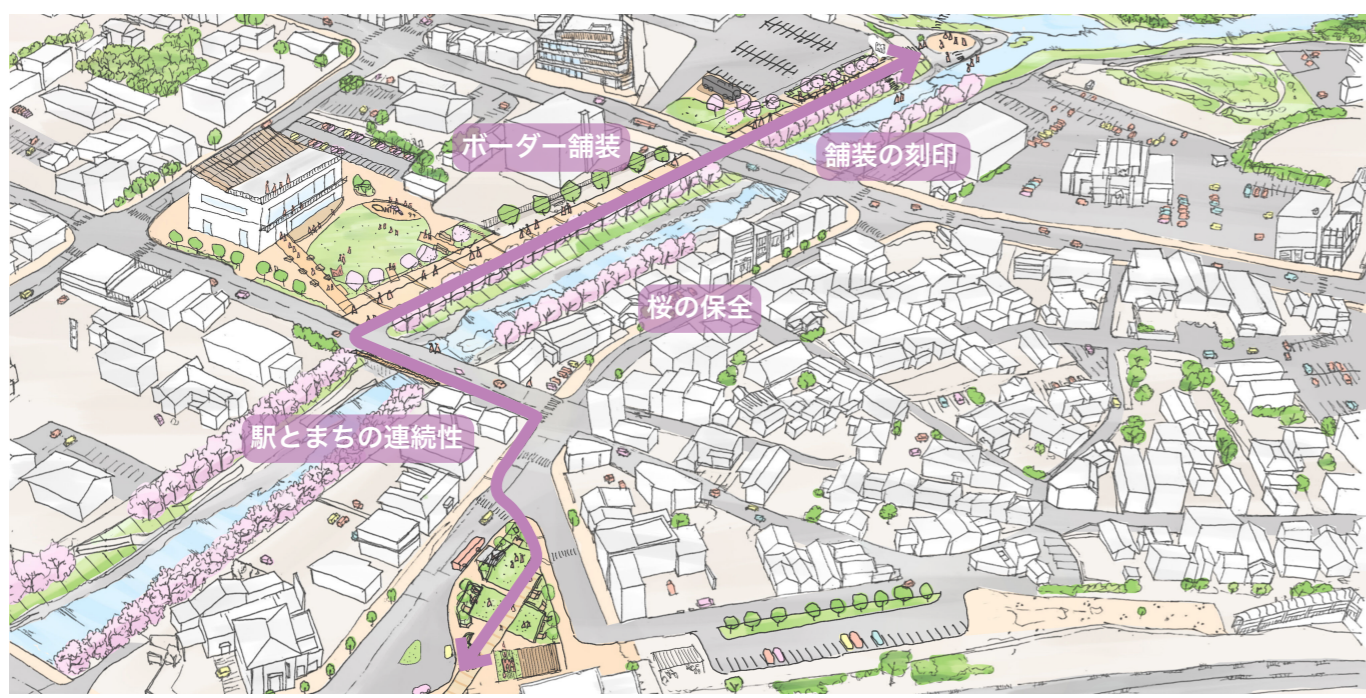
8 駅前から市役所までつなぐアイデア = 「咲くライン」

咲くライン=桜+ライン

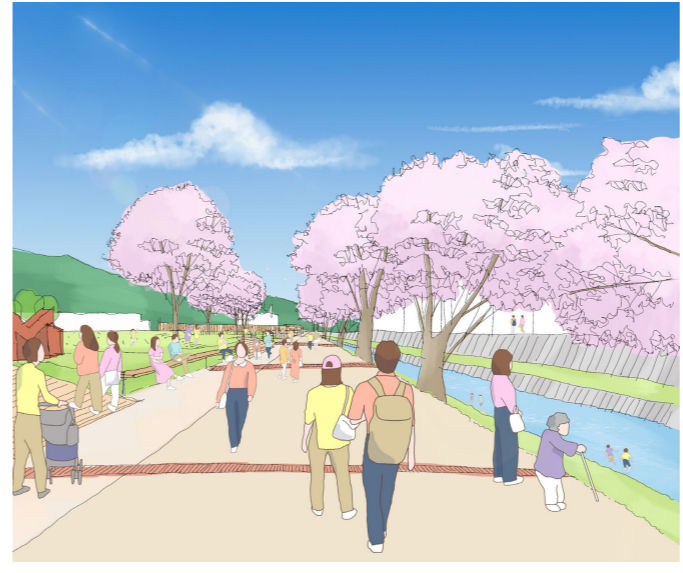
地域の象徴でもある厚狭川沿いの桜にちなんで、桜のラインとして駅前まで連続させることで、駅前広場から市役所までを繋ぐコンセプト



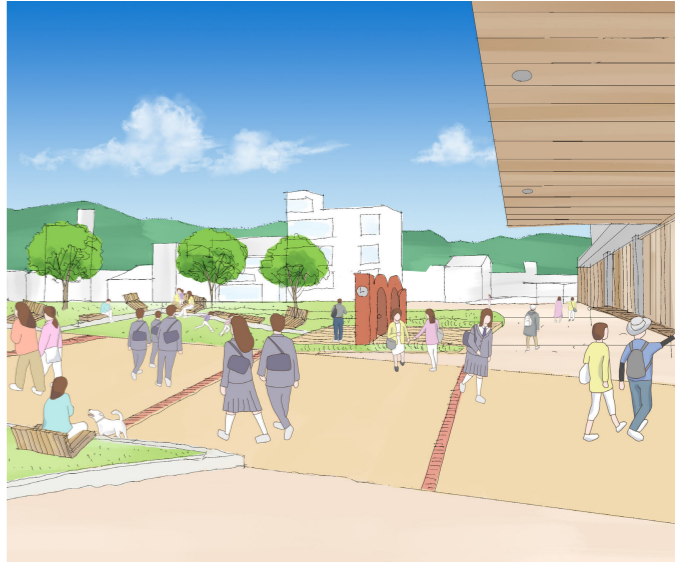
- 「咲くライン」を実現するための空間アイデア
- 既存の桜の保全
 - ボーダー舗装により動線の連続性と回遊の演出
 - 舗装の刻印（寄付による氏名の刻印）
 - LED ライン照明により動線の連続性と回遊の演出
 - 桜等のライトアップ



既存の桜の保全



ボーダー舗装により動線の連続性と回遊の演出



舗装の刻印 寄付による氏名の刻印



LED ライン照明



9 空間デザインのコンセプトを考慮した 景観・意匠のデザインコード

美祢市中心市街地地区にふさわしい良好な景観を形成するために、空間デザインのコンセプトを達成するために重要と考える空間要素について方向性を示します。また、美祢市中心市街地地区のまちづくりにあたっては、市の「秋吉台地域景観・施設整備基本計画」や屋外広告物のルールの考えも踏まえたものとします。

MINE 秋吉台ジオパークと呼応するデザインコード（素材・色彩等）の設定

出典：美祢市市勢要覧

- 秋吉台の「白い」石灰石、大嶺炭田の「黒い」石炭、長登銅山の「赤い」銅。



美祢ホワイト



美祢ブラック
■ K100



美祢レッド
■ M98 Y74 K45

- 3億5千年前から続く歴史を現在に伝え、長年美祢のまちを潤してきた「白」「黒」「赤」は、雄大な景色と歴史、ロマンに抱かれたまち・美祢を象徴する色彩や素材と認識します。

舗装

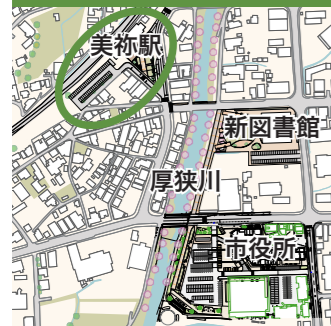
舗装材は景観上ベースとなる重要な素材です。ゾーンごとの景観に調和した素材・色彩を基本とします。

ボーダー舗装

ライン状の舗装を一定間隔で入れることで、空間にリズムを出したり、刻印などの意味を掲示できます。



美祢駅前広場



美祢駅前広場は、周辺の赤瓦の街並みとの調和に配慮するとともに、周辺繁華街の華やぎ演出も考慮します。また、歩行者広場の空間的広がりや多目的利用との親和性に配慮します。

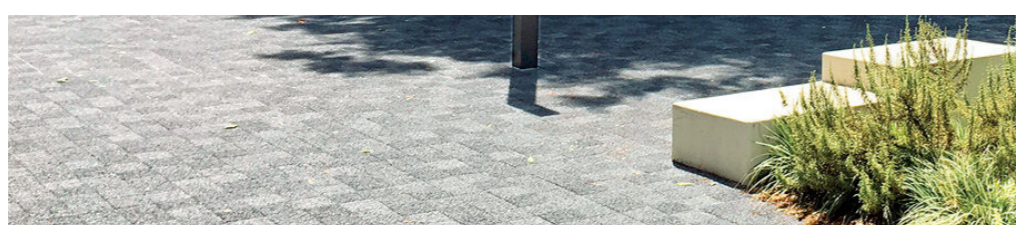


ベージュや茶系の色彩の舗装を基調とし、方向性を指向しないグリッドパターンの舗装材の配列や敷き均しタイプの舗装とします。

厚狭川沿いの通路



厚狭川沿いの通路は、厚狭川の流れをモチーフにします。さくら公園や新庁舎のグレー基調の舗装と調和し、連続・一体的な景観を形成します。



長尺石を一方方向に連ねた縦長の舗装パターンとします。素材は石材を基調とし、コストを考慮しコンクリート平板や石灰石 As 舗装等も検討します。

柵・手すり

立ち上がりとして見えてくる柵や手すりは、美祢の玄関口としての格調、歴史の重厚感を表現する素材・色彩を基本とします。具体的には透過性に優れたシンプルでスレンダーな構造を基本とし、石炭をモチーフとした黒系（「墨黒」等のダークグレー）を基調色に設定し、ステンレス等、光の反射が多い素材の仕様は控えます。



スレンダーなダークグレーの柵

照明

照明は機能的であるとともに、夜間景観を演出する重要な要素です。美祢に馴染む落ち着いた夜間景観を創出するために、照明は色温度を抑え、暖色系を中心とした温かみのあるものとします。また、照明柱の立ち上がりにより眺望を阻害しないように配置の工夫や、手すりやベンチなどに照明器具を組み込むなどの工夫も行います。



色温度を抑えた暖色系の照明

ストリートファニチャー

ベンチなどのストリートファニチャーは滞留空間の中でひとの居場所となる重要な要素です。触れ易い、座りたくなるような素材（木材やセラミック等）を選定し、居心地に配慮します。ベンチについては、座面の素材を統一し、まちなみの一体感を創出することを目指します。公共空間以外の民間敷地についても協力が得られるよう努めます。



温かみのあるベンチ

サイン・道路付属物

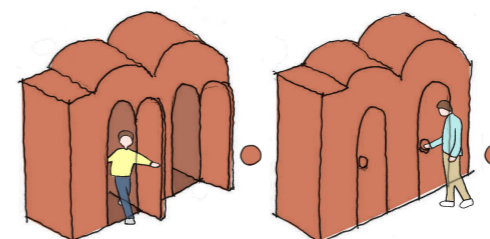
道路付属物（標識や案内サイン等）についても「Mine 秋吉台ジオパーク」と呼応するデザインコードの色彩を設定し、景観としての一体性の確保を目指します。また、照明やベンチ等と一体的に配置し、分かりやすい位置にサインを設置します。



周辺環境に配慮した色彩のサイン

モニュメント

地域の歴史や人物の功績を記念して建造されるだけでなく、都市や場所のシンボルとして、文化を象徴する役割も担うモニュメントを設置します。



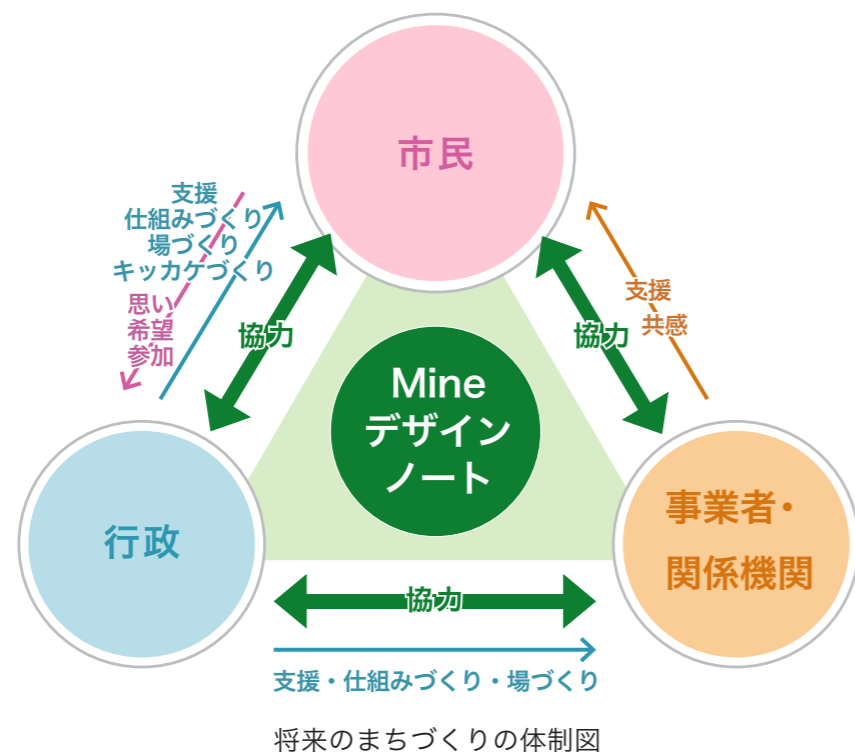
まちのリビングの入口となる
ドア・モニュメントイメージ



シンボルとなるモニュメント

デザインの実現に向けて

本デザインノートに描かれているデザインは、広場の空間計画やファニチャーの詳細デザイン、照明デザインなど多岐に渡ります。また、図書館担当部署や駅前の交通事業者、河川管理者等との協議が必要となります。今後、設計が進んでいく中では、変更や調整を余儀なくされることも想定されます。このデザインノートに示しているデザインを調整しながらも、使う人の目線で使い勝手や居心地が良い空間、賑わいを創出する空間を実現するためには、市民 - 行政 - 事業者・関係機関など多様な主体が連携・協力し、継続的に取り組むことが必要です。また、今後市民の方に使って頂くためには、「造ってから使う」を考えるのではなく、市民の皆さんとともに「造りながら試してみる」といった視点も重要となります。



美祢市中心市街地地区
Mine デザインノート

令和 6 年 2 月
発行：美祢市
建設農林部 建設課

〒759-2292 山口県美祢市大嶺町東分 326-1
TEL 0837-52-5221 / FAX 0837-52-5698